

## 『大学への警鐘：チャットボットに細心の注意を払う』

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント

東京、2023年1月23日

最近、『AI チャットボットに警鐘を鳴らす、大学が教育方法の見直しを開始』"Alarmed by AI chatbots, universities begin to revamp the way they teach (原題)"と題する New York Times の記事を読みました。

私なりに多少のアレンジを加えながら、行政関係者や大学関係者の皆様に向け、この記事の重要な点を引用、共有したいと思います。SNS などの新たなデジタルツールの出現で、人間の愚鈍な面が急速に助長されているこの時代において、学術機関の健全性(誠実性)を守ることを託された人たちにとって、このレポートが少しでも皆さんのお役に立てばと願っています。

前述の記事は、剽窃に利用できる人工知能ツール「ChatGPT」の出現に対する米国および世界中の大学の懸念に言及しています。

ChatGPT とは、会話を意味する英語の「Chat」と、Generative Pre-trained Transformer の頭文字をとった「GPT」との造語です。GPT は、チャットで相手から質問されたことに対して、あらかじめ用意された回答を生成する役割を担っています。これまでは、Google を含むインターネットの検索エンジンなどで、この様なやり取り(質問)がなされていました。

ChatGPT は、情報提供や概念を説明するだけでなく、簡単な文章を用いたアイデアの生成が可能で、学術機関に所属する学生達が書くのと同じようなエッセイや文書を作ることができます。実際、すでにいくつかの米国の大学では学生が ChatGPT を使用したことで、その存在に警鐘が鳴らされています。

2022年11月に、この分野の最前線にいる人工知能研究所 OpenAI によって ChatGPT は公開されました。この事は生成型人工知能と呼ばれる新しい技術の波を象徴していると言えるでしょう。

ChatGPT はさまざまな分野の質問に対して、詳細でよく練られた回答を作り出すことができますが、まだ開発初期段階であるため、回答には不正確な点もあり、時には説明や出典の引用を誤ることもあるようです。

ChatGPT の出現に対抗するため、大学管理者や教授は教育・学習プロセスの見直しに着手しており、この動きは学術環境により大きな変化をもたらすでしょう。一部の教師はすでに授業を再構築し、口頭試問やグループワーク、コンピュータの代わりに手書きの課題を増やすなどの工夫を行っています。

また、大学における AI ツールの活用による剽窃防止対策なども行われています。

以下、剽窃防止対策の一例を見てみましょう。

- \* コロナ禍で主流となっていた自宅での課題実施はチャットボット対策が難しいとされる為、この様な形式は段階的に廃止する。代わりに、教室内で課題を行う、多肢選択式試験、口頭試験、グループワークが増えていく。
- \* 学生には教室内でレポートの初稿を書かせ、その際にはチャットボットの使用を監視・制限が可能なブラウザを使う。その後のレポートについては、学生自身が書いた事柄の一つ一つを説明しなければならない。
- \* 生徒には、チャットボットでは回答が難しい質問を投げかけたり、生徒自身の生活や時事問題について書かせる。また教授陣は、ChatGPT がまだあまり情報を持っていないような最新でニッチな情報を教えるよう努める。
- \* ChatGPT を授業に取り入れ、生徒にチャットボットの回答を評価させる。授業では人間（先生や学生）だけでなく、ChatGPT の意見も聞きながら、質問について議論する。
- \* 「AI チャットボットが書いた文章を、自分のものとして使うこと」など、生成系人工知能の利用を剽窃の定義に含める。例えば、人工知能ツールに質問し、そこで得られた回答を論文に再現することは剽窃に当たる、などの内容を含める。
- \* Turnitin や GPTZero など、AI が生成したテキストを検出することを目的としたプログラム等の剽窃検出サービスを導入する。
- \* AI チャットボットを教育計画の優先取り組み課題とし、大学管理者に対策委員会の設置を促すだけでなく、これらのツールを教育・学習プロセスに適応させる方法を大学全体で議論する。
- \* AI ツールや学問に対する姿勢について、入学生や新入生の必修科目で教える。

ChatGPT を開発した OpenAI は、現在のバージョンよりもテキスト生成に優れたツール「GPT-4」を近々リリースする予定です。

グーグルは独自のチャットボットである LaMDA を開発し、マイクロソフトは OpenAI に 100 億米ドルの出資を検討しています。その他、シリコンバレーのスタートアップ企業である Stability AI や Character.AI も、生成型 AI ツールの開発に取り組んでいます。マイクロソフトが OpenAI を買収する意向を示したことで、グーグルとの間で AI ソフトウェア市場の覇権争いが激化することになるでしょう。

しかし、AI ツールの利用が大学によって適切に管理されれば、学生、教師、研究者、その他 学術関係者にとってプラスの価値が生まれるかもしれません。なぜなら、AI ツールは、論文や 小論文の作成におけるブレインストーミングを促し、プログラミングに起きている問題を即座 に修正できるかもしれないからです。

反対に、ChatGPT やその他の AI ツールの使用に関する適切なポリシーや規制がなければ、不 誠実な学生は ChatGPT で書いた課題を我が物顔で提出するだけでなく、仲間も巻き込んで不 正行為を行うことが予想されるので、大学は盗作の検出と管理に苦慮することになるでしよ う。

訳：ディアス畑田 紋奈